

滋賀・上永原遺跡 かみながほら

- 1 所在地 滋賀県野洲郡野洲町大字上屋
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～七月
- 3 発掘機関 野洲町教育委員会
- 4 調査担当者 吉川和則
- 5 遺跡の種類 集落跡・城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代末～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(近江八幡)

上永原遺跡は、国鉄野洲駅より北東へ二・五km、旧家棟川右岸、標高約九〇mの自然堤防上に立地する。遺跡内には中世佐々木氏所縁の永原氏居城、上永原城が存在するほか朝鮮通信使往来の道である朝鮮人街道を隔てて永原御殿跡や常楽寺遺跡などが広がっている。昭和五六年四月、小学校プール建設に先立ち発掘調査を実施したところ、上永原城掘割および中世～近世に

及ぶ遺構が検出された。木簡はこの掘割に面した浅い溜状の遺構内より出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「与一兵衛 千崎弥郎
忠臣蔵 五段目
九郎 勘平」の
笠
・「手 小屋カ」
播州

234×65×7

歌舞伎忠臣蔵五段目、山崎街道の場を表したものである。「千崎弥郎」は千崎弥五郎を指し、「鉄」は鉄砲、「九郎」は定九郎であり、「勘平」は早野勘平を指すものである。また与一兵衛の名や、山崎街道での鉄砲、蓑笠といった勘平の姿を示す表現も見られる。周辺には戦前まで野良小屋という野外芝居が盛んであったことから、「播州」も播州小屋と読め、芝居を公演する一座の固有名詞とも考えられる。また木簡については、忠臣蔵上演の際落書の札として用いたものではなからうか。

(進藤 武)

手
小
屋
カ

忠臣蔵
五段目
九郎
勘平